

## [ オリックス・バファローズ CUP2017 ] 大会約款(大会特別規定)

本大会は、少年硬式野球団体が他団体と交流することにより、少年硬式野球の発展と、参加する少年たちの心身の育成発達に寄与することを目的とする。上記目的に賛同する団体は、主催者と各団体代表者の承認をもって出場することができる。大会運営においては、相互理解のもと主催者の意見を尊重する。

下記の大会特別規定をさだめる。

- 1、本大会に参加できる選手は所属団体の規定を満たす者とする。2017年6月末日の時点で登録されたチーム以外からの参加は認められない。
- 2、チームは、単独チームとし25名の選手で編成すること。またベンチに入ることができる監督、コーチ、スコアラーは3名までとする。監督、コーチ、選手は原則として同一のユニホームを着用すること。ただし、所属団体に別の規定を有する場合はそれを優先する。背番号は所属団体規定の通りとする。
- 3、本年度公認野球規則と下記の細則により試合を行う。
  - (a) 各チームの主将は試合開始予定時刻40分前、または前試合5回終了時(コールドゲームの時は試合終了次第)所定のメンバー表を本部に提出し、同時に審判員立会いの下で攻守を決める。
  - (b) 本大会は7回戦とし、4回終了をもって正式試合とする。コールドゲームは4回終了時10点差、5回以降7点差とし、試合進行に係わらず試合開始から2時間00分を越えて新しいイニングには入らない。ただし、時間内で同点の場合は、1イニング延長戦を行う。さらに同点の場合は、タイブレーク方式(※1:攻撃は、一死走者満塁の状態から行う。打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。この場合の走者は、打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。この場合の代打および代走は認められる。)を実施する。尚、試合進行に係わらず試合開始から2時間00分を越えて同点の場合は、7回を終了していなくても次のイニングからタイブレーク方式(※1)を実施する。(勝敗については、勝負が決するまで行う。)  
決勝戦は次によるものとする。コールドゲームを適用しない。時間は無制限とし、7回を終了した時点で同点の場合は、1イニング延長戦を行う。さらに同点の場合は、タイブレーク方式(※1)を実施する。(勝敗については、勝負が決するまで行う。)
  - (c) 降雨その他の理由により試合続行不可能の場合、4回終了をもって正式試合とし、それ以前の場合は再試合とする(この場合、審判員協議の上で決定する)。また、正式試合後においても降雨その他の理由により、試合続行が不可能な場合、均等イニング回での成績により勝敗を決定する。
  - (d) 試合での登板は以下のとおり制限する。  
1日7イニング以内とし、連続する2日間で10イニング以内とする。また、1日に複数試合に登板した投手及び連続する2日間で合計5イニングを超えた投手(5イニングは可)及び3日間連続で登板した投手は、翌日に投手または捕手として試合に出場することはできないものとする。ただし、イニングの端数(0/3回、1/3回、2/3回)は1イニングとみなす。  
また、同一イニング内で、投手が一度他の守備位置についた場合、再び投手に戻ることができるのは一度に限る。
  - (e) 選手が打席に入る時は、必ず耳つきヘルメットをかぶること。また、走者になっても危険防止のため必ず着用する(コーチャーも同様)。なお、捕手も防護用ヘルメットと所定の防具を着用すること(練習時も含む)。
  - (f) スパイクは、各団体が認めたものを使用すること。
  - (g) 代替走者は認める。ただし、特別な事情の場合(死球など)に限り少し休めば試合に出場できると審判員が判断した時に適応できる。この場合、その打者の最も近い打撃の完了した選手(バッテリーを除く)を代替走者とする。ただし頭部付近の死球に関しては必ず代替走者をだすこととする。
- 4、各チームは必ず成人である責任者が引率し、大会中、選手のすべての行動ならびに応援に対して責任を負うこと。
- 5、審判に対する申し出は監督が行う。ただし、審判のジャッジには抗議できない。
- 6、傷害処置については、大会中の負傷または疾病に対して応急処置は施すが、それ以上主催者は責を負わない。

## [ オリックス・バファローズ CUP2017 ] 大会特別規定・補足

- 1、球場に到着したチームは本部に到着した旨を報告し、メンバー表5通を受け取る(メンバー表の記載は、スターティングメンバー9名のみとし、控え選手の記載は不要とする)。また、勝ち上がったチームは、試合終了後に投球回数記録表を本部にて確認、署名し、次試合時球場到着後本部に原紙1部、コピー(白黒)3部を提出する。投球回数記録表を忘れた場合は、没収試合とする。
- 2、ベンチはトーナメント表の上段のチームを1塁側とする。
- 3、グラウンドに入ることができる者は登録された監督・コーチ・スコアラー・登録選手と、チームが指定したボールボーイ(上着は、チームTシャツもしくはアンダーシャツを着用。ユニホームの上着は背番号がなくても不可。)原則3名のみとする。但し、ボールボーイは試合前ノックならびにバット引きの手伝いは行わない。
- 4、グラウンドインしたチームは大会委員の指示のもとに、速やかに試合前の練習を行うこと。グラウンドルールがある場合はそれに従うこと。
- 5、試合前のノックは5分間とする。ただし、試合の進行状態により行わない場合もある。試合をスピーディーに行うため以下の項目を守ること。
  - (h) 攻守交替時に守備に移るチームがスピーディーにポジションにつくことはもちろんのこと、攻撃に移るチームも第一打者とベースコーチは、ミーティング(円陣)に加わらず、所定の位置にすみやかに付くこと。
  - (i) 投手は投手板に触れている状態で、捕手からサインを受けること。
  - (j) 打者は、みだりにバッターボックスを出ることは許されない。たとえ、タイムを要求しても審判員がタイムを宣告しない時はインプレーとする。
  - (k) 次打者は必ずウェーティングサークルに入り、待機すること。  
投手が投球姿勢に入った時にはスイングを行なってはいけない。
  - (l) 捕手は投手に返球したり、野手に声をかけるために一球ごとにホームプレートの前に出ないこと。
  - (m) 捕手が第3アウトまたは残塁した場合は、代替捕手が投球練習の捕手を務める。
- 6、監督が投手に指示を与える目的をもってタイムを要求する場合、直接間接問わず1イニング2回目には自動的に投手交代となる。その投手は、他の守備位置につくことはできるが同一イニングでは再び投手として登板することはできない。但し、新しいイニングに入れば登板することが出来る。
- 7、監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回と守備2回の合計4回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで1回の指示、伝達を認める。(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない。)内野手が2名以上投手のところに行った時も1回に数える。
- 8、登録指導者が体調不良や仕事等の関係で、ベンチ入りできない場合、各団体の変更届の提出により変更を認める。
- 9、メンバー登録期限後の選手の追加登録や交代は認めない。
- 10、マスコットバット、バットウェイトリング、鉄バット、バット用滑り止めスプレーのベンチへの持ち込み、使用は認めない。
- 11、コーチボックスにいるコーチャーは相手選手をまどわすような動きをしてはならない。
- 12、ベンチから出たのハイタッチ等は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
- 13、選手の手袋などの使用は認める。
- 14、ゴミは球場(グラウンド・スタンドを問わず)に捨てず、必ず持ち帰ること。スタンドで応援する選手、保護者にも徹底すること。
- 15、試合前練習場所・時間については、主催者の指示に従う。
- 16、応援時の鳴り物(太鼓・笛・トランペット・メガホン等)については、富田林バファローズスタジアムでは禁止とする。